

東日本大震災復興支援活動終了での御礼

東日本大震災から丸 10 年を迎えました。

犠牲になられた方、今もなお、苦しみを抱えておられる方のためにお祈りします。

時が経ち、新しい街並みが造られても、被災による傷は深く、癒えることはありません。

仙台教区は復興支援活動のための指針として「新しい創造」基本計画を出し、「谷間に置かれた人に寄り添う」ことをモットーとしてきました。このたび、10 年を持ちましてカリタスジャパンを中心とした支援活動は終止いたします。この 10 年、同じ思いを持った大阪教会管区の皆様のご支援とお祈りを本当にありがとうございました。一方、皆様から寄せられた支援金によって、「大船渡ベース」は地域の人々の支えとしての支援活動を続け、また「南三陸ベース」は NPO 法人として街づくり活動を継続いたします。大阪教会管区担当司教として支えてくださった皆さま一人一人の方へ心から感謝申し上げます。

2021 年 3 月 11 日

諏訪榮治郎 司教

* * 南三陸ベース 千葉道夫氏から 皆様への感謝のメッセージが届いております。

大阪教会管区

東日本大震災復興支援 関係者の皆さま

いつも東北に心を寄せて頂き誠にありがとうございます。

皆様に支えられ、何とか震災から 10 年続けてくる事ができました。

大阪教会管区の皆様に受け入れて頂いてから

阪神淡路大震災の教訓で「地域雇用」が大切だと学び

職員全員が地元雇用となりとても充実した日々が始まりました。

早いものでそれから 4 年半が経ちます。

そして本日をもってカリタス南三陸ベースのスタッフは

カトリック大阪大司教区を退職させて頂き、

明日からは一般社団法人カリタス南三陸の職員として、

新たなステップを歩んでいく事になります。

なかなか直接お会いできなくとも、東日本大震災の被災地の為に

お祈りしてくださっている事が伝わってくる

とても思いやりのある態度で接してきてくださった皆様に支えられ

南三陸町で被災された方達に寄り添ってくる事ができました。

至らない私たちを温かくご指導頂き心から感謝しております。

そして震災から 10 年という節目を迎える年に

「カリタスみちのく」という新しい東北のネットワークを

大阪管区の仲間である、カリタス大船渡ベースと立ち上げる事になりました。

現在はこの仲間に、仙台サポセン元スタッフも南相馬も釜石も加わってくれました。

これからこの横のつながりをゆるやかに運営していく時に

私たちが大阪管区時代に培ったすべての経験を

カリタスみちのくの世話人仲間達を分かち合う、という不思議な状況が始まっています。

神様が大阪管区の皆様とのご縁を繋いでくださったお蔭だと思いと

御心は計り知れません。

東北の被災地は心の復興はまだこれからで
復興住宅では新しいコミュニティづくりが一番大事な時期に
パンデミックが起きてしまいました。
福島は震災直後そのままの地域も残っています。
世界中で辛く悲しい事は沢山ありますが
皆様への感謝を忘れずに、みちのくの仲間達と
これからも寄り添っていけるようにお祈りくだされば幸いです。
この4年半、私たちが温かく見守って頂き本当にありがとうございました。

本来であれば直接ご挨拶にお伺いするべき所
メールでのご挨拶となってしまう申し訳ございません。
いつか情勢が落ち着きましたら御礼にお伺いさせて頂きたく存じます。
大阪教会管区の皆様のご健康とご多幸を遠く宮城からお祈りしております。
今後とも何卒よろしく願いいたします。

添付写真：全ベース会議 2018年12月18日南三陸町袖浜にて

カリタス南三陸ベース ベース長 千葉道生 スタッフ一同